

教区創立記念ミサ説教

2022年2月25日

鹿児島カテドラル・ザビエル教会

本日、私たちは、67年目の教区創立記念ミサを捧げています。1927年（昭和2年）鹿児島は、長崎教区から分離され、鹿児島使徒座知牧区となりました。第二次世界大戦後、1947年（昭和22年）奄美諸島はローマ教皇庁直轄の地域となりましたが、1953年奄美諸島が日本復帰し、その2年後の1955年（昭和30年）に教区に昇格しました。

一昨日23日に、長崎大司教区は、中村倫明という新しい大司教様をいただきました。着座式の前日、教皇大使を交えた夕食会の席上で、参加した全司教団が、各自新大司教に向けた祝辞を行いました。私自身新しい司教様は、10歳学年が離れているので、その人となりをよく存じ上げなかったのも、何をお話すればいいのか迷いましたが、結局長崎教区と鹿児島教区の繋がりについて、お話ししました。おそらく新大司教様はご存じないのではないかという思いでした。つまり、鹿児島教区は長崎教区から枝分かれして、育てられていたのです、それは、初代の里脇司教様、次の系永司教様、ともに長崎教区からの方々です。

今日、私たちが金祝を祝う小川神父様もおひとりです。そして、長崎教区から派遣された現時点での最後の神父様でもあります。

一方、郡山司教様は鹿児島教区出身でいらして、当時、同級生で、長崎大司教であられた高見大司教様から、鹿児島教区もようやく自前の司教が誕生しました、との祝辞をいただきました。それはもう16年前の話になります。

ところで、金祝を迎えられるお二人の司祭叙階の時の記念カードにのせるモットーが竹山神父様のパソコンのデーターから発見されました。

それによると、郡山司教様のものは、「私は今日も明日も次の日も歩き続けなければならない」で、小川神父さんのものは、「神の力は私の弱さのうちにまっとうされる」（2コリント12,9）でした。私も自分なりにお二人のモットーのことばを探していたのですが、ミサのぎりぎりになって、助けてくださったのはやはり竹山神父様でした。現役の永山神父様もふくめ、長崎教区に育てられたというのが現実です。50年と言えば半世紀です。67年の教区の歴史のその屋台骨を作ってくくださった、お二方に心からの感謝を表明いたします。

激動の1970年代に青春を過ごされた、お二人は、時代の風潮であった改革の精神の持ち主でもあります。すっかり、デジタル化した今日を先取りなさっていた、郡山司教さま、フィリピン、東京、京都と、教区外への出向が多かった小川神父様、これからも教区のために、必要な戦力としてご活躍くださり、私たち若輩をご指導ください。

本日は誠におめでとうございます。